

令和4年7月11日

大阪府立柴島高等学校 第1回 学校運営協議会 議事録

1 会議日時 令和4年7月11日(月) 16:00~17:30

2 開催場所 大阪府立柴島高等学校 校長室

3 委員

	氏名	資格	所属	出欠
会長	森田 英嗣	学識経験者	大阪教育大学 副学長	○
副会長	山本 了照	地域の関係者	大阪市立淡路中学校 校長	×
委員	戸田 和雄	その他の関係者	大阪府立柴島高等学校後援会 会長	×
委員	武田 緑	地域の関係者	Demo(教育ファシリテーター・武田緑事務所) 代表	×
委員	表西 貴文	地域の関係者	大阪市新大阪人権協会 評議員	○
委員	畑中 一美	保護者	大阪府立柴島高等学校PTA 会長	○

4 事務局(学校側)

原田 信尚(教頭) 三輪 真嗣(首席) 内田 清彦(首席) 堀 博俊(事務長)  
森田 正良(校長)

5 次第

- 校長あいさつ
- 会長あいさつ
- 委員の紹介
- 事務局より報告
  - ・学校経営計画について
  - ・スクールミッションについて
  - ・人権教育推進にかかわる年間方針
  - ・各校務分掌の年間方針について
- 質疑応答

6 会議の概要

- 学校経営計画について(校長)
  - ・昨年度の学校運営協議会の意見も踏まえて作成している。昨年のものから大きく書き換え、本校の取組を整理した。
  - ・めざす学校像は「生徒一人ひとりを大切にし、それぞれの“力”を最大限に伸ばしていく学校」とい

うもの。

- ・総合学科のシステムを活用した学力育成と進路保障、人権教育の推進、「ともに学び、ともに育つ」教育の推進を柱に、それらを支えるための協力協働の職場づくりと校務の効率化を掲げている。
- ・生徒が主体的に学び、自分で判断して決定する。様々な生徒が協働する。そして、共生社会に貢献できる人材の育成をめざしている。また、生徒のみならず、教職員にとっても安心安全な学校となるようにしたい。

○スクールミッションについて（校長）

- ・今年度、全ての高校が策定しなければならない。
- ・府教育庁からの指示によると、「各校の存在意義や各校に期待される社会的役割、めざす学校像等を定義するもの」であり、「学校に関わる全ての者が共有し、学校における各場面で、どのような判断をするか、どのような対応をするかを方向付ける役割を果たす」ものとされている。
- ・併せて、作成要領が示されているので、校内で議論を進め、次回の学校運営協議会で進捗をお伝えし、ご意見を伺いたい。

○人権教育推進にかかわる年間方針について（首席）

- ・学校経営計画との整合を図り、狭義の人権教育推進方針としたが、めざすところは不変である。
- ・その根幹として、①生徒が安心して自分のことを話すことができる、②多様な生徒が自分らしく共生できる、③将来の展望を持って卒業することができる、という目標を定めている。
- ・地域との連携については、地域の教育資源を活用するとともに、学校が地域づくりに関わるような取組を進めていく。
- ・生徒が人権学習を行うことはもちろん、教職員研修も計画的に実施していく。

【質疑応答】

委員) P T Aの方でも人権講演会を企画している。学校では、L G B T等の課題にも取り組んでいるのか。自分の勤めている会社でそのセミナーがあった。当事者もそうでない人も、身近な人のこととして、自分自身でも気をつけていかないといけないと思っているが、保護者の中には認めたくないという人も多いのではないか。

校長) 資料にもいくつかの人権課題を示している。同和問題と障がい者理解は本校の柱だが、多文化共生や性の多様性にも取り組んでいる。特に、性の多様性については、潜在的にも顕在的にも課題があると認識しているので、しっかりやっていきたい。

委員) 地域連携が非常に大事な部分だと思う。地域へのフィールドワークに取り組んでほしい。また、インターネットに差別意識を煽る動画が投稿されている。その辺にもアンテナを張ってほしい。次に、質問だが、進路状況、通級指導の様子について教えてほしい。また、働き方改革を巡って地裁の判決が出たが、その影響についてはどうか。

首席) 昨年、フィールドワークを計画していたが、コロナ禍で中止になった。今年は必ずやりたい。進路状況については、進学が約90%、就職が6~7%ぐらいというのが最近の傾向。奨学金等は借りやすくなったが、心配なのは返済することができるかどうか。その後どうなったかの追跡が難しい。多くは活躍しているが、学費に相当するだけの学びかどうかに疑問を持ち辞めてしまう卒業生もいる。また、なかなか家庭で学習する習慣が身に付かず、一般入試まで頑張るといふ生徒は少ない。通級については、ニーズはかなりあるが、大阪の高校では自校通級のみとなっている。

校長) 本校も時間外在校時間が過多となっている教職員が多い。判決を受けて、部活動をどうしていくのか、知事も興味を示しているので、今後、何かが示されるのではないかとと思われる。国や府の動き

を注視したい。

○各校務分掌の年間方針について（首席）

<総務・教務・生活指導・進路指導・保健・集団育成・自立支援の順にポイントを説明>

【質疑応答】

委員) 働き方改革については、やることとやらないことを分けるのが大事。思い切ってやめるものがあるのかどうか、その辺がキーポイントになる。改革するのであれば、バッサリいって、代わりの取組を進めていくべき。

首席) 教育課程はすぐには変えられないが、2年前の議論で、半期認定をやめ、選択科目を大幅に削減し、コアカリキュラムも1つ減らした。行等事についても、総合発表会、1年のフィールドワーク、1・2年の芸術鑑賞、舞台での授業発表、土曜日の進学講習などをやめた。

委員) 減らしたことによる評価はしたのか。

首席) 評価できるのは数年後になる。いろんなことを減らしたが、教員数も減ったので、負担感が少なくなったという者はいない。

教頭) 部活動については、部活動指導員が新設され、本校にも配置している。

校長) この間、かなり思い切った業務削減はしてきている。ただ、減った分、府からは次々と新たな業務が来る。引き続きやっていかなければならない。

委員) 教員が増えないと無理ではないか。

委員) 府のレベルで何とかしないとイケない。学校レベルではできることが限られている。

委員) 部活動の働き方改革については、部員である生徒が理解しないだろう。過渡期においてどのように分業するかがポイントではないか。

教頭) 教職員の年齢構成、家庭事情など、ワークライフバランスの観点が難しい。

委員) スクールミッションのボリュームは？

校長) 当初、府教育庁からはキャッチコピーみたいなものという説明を受けていたが、作成要領を見ると、もう少し長くなっている。いずれにせよ、一文で表記するイメージ。

委員) スクールミッションは難しいところがある。つくったらつくつたで、これに縛られてしまう。

委員) 一度つくるともう変えないのか。時代とともに見直しが入るのかなと思う。ブランディングと捉えればいいのか。

校長) 本校の場合は、ずっと大事にしてきたものがあるので、変わりにくいと考えている。

委員) P T Aでも話題になっているが、部活動の会計報告は年度末にあるのか。

首席) やる予定で進めている。

委員) 一人一台端末の活用については？

教頭) 活用計画を作成している。

校長) 実態として、かなり使っているのではないか。

首席) 課題としては、Chromebook が重い、バッテリーの未充電問題、自分のスマホを使う生徒が多いなどがある。

委員) 地域に根ざした学校というのはとても大切だ。地域外から来た生徒も、この地域を舞台に活躍してほしい。地域の生徒の割合は？

首席) 地域の生徒は激減している。

校長) 一学年あたりの出身中学校数は130に及んでおり、遠くからバラバラに来ている生徒も多い。地域との繋がりは、あらためて強めていきたい。

7 第2回学校運営協議会について

11月16日（水）14:30～16:00 で開催（授業見学も予定）